

Ouhokai - Kaihou

桜圃会 会報

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

Vol.59

平成23年2月10日発行



2011
おいでませ!山口国体
おいでませ!山口大会

君の一生けんめいに会いたい

本年10月に開催される「おいでませ!山口国体・山口大会」に向けて、国体強化選手の支援、大会ボランティア参加等の取組を進めています。県大生の活躍にご期待ください!



(クライミング強化選手)



(アーチェリー強化選手)



(広報ボランティアの皆さん)

愛を込めて

— ご挨拶を —

会長 福田 百合子



私事、既に老骨の身、意外、

望外のことでございましたが、過日平成二十二年五月の総会に於いて役員改選により、

会長のお役目をいただきました。大役で、ためらいも大きかったのですが、精一杯つとめますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

報告のため、本館北側の学長室へ参りましたら、壁面に初代学長近藤先生、続いて香川先生、田中巖先生と歴代学長の顔写真が掲げられていました。なんと現在の江里学長先生に至るまですべての諸先生方にご縁がありご指導いただいた数々が浮かび上がり、本当に感無量でした。

白石にありました山口高女のかなめ会館から山口女専、短大、女子大、県大、そして現在の独立法人の大学に至るまでの長い道のり。自分自身を振り返りまして、生徒・学生の頃、助手時代、教員時代、同窓会と正に私の人生そのものと大学と桜圃

会はずたり重なっています。

皆様方にとりましてもきっと青春の一番大切な時期と、宮野桜島の大学は分ち難く共存しているのではないのでしょうか。

その大学は、本年七十周年の節目を迎えました。記念事業推進委員長江里理事長からも「桜圃会の格別な物心両面にわたるご協力を」との熱いメッセージが寄せられました。五月の総会、前日の式典と諸行事に是非ご参加下さいませ。

これからの「桜の森」の育成、後輩学生たちへの支援と融和、地域への感謝と奉仕、未来への展望と実現を、同窓生として、私たちの大切な大学のために、ささやかながら継続し、実行しようではありませんか。

微力ながら、そのかけ橋として力を尽くしますので、重ねて、よろしくお願ひ申し上げます。愛をこめて、皆様へ心からの挨拶と致します。

(昭和23年国語卒)

創立七十周年記念事業

―新たな飛躍をめざして―

理事長(学長) 江里 健輔



一九四二年(昭和十六年)に山口県立女子専門学校として産声を上げた本学は、本年五月に七十回目の開学記念日を迎えます。

少子化の進行により、大学が学生を選ぶのではなく学生に選ばれる、いわゆる「大学全入時代」を迎える中、本学としては、この創立七十周年を、未来に向けて飛躍を図る上でのステップ台にしたいと考えています。

このため、年間を通じて創立七十周年記念事業を展開し、本学の存在を強くアピールしていくことにしています。

五月二十一日には、本学講堂で創立七十周年記念式典を開催します。記念講演の講師には、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクター・マネージャーを務められた川口淳一郎さんをお迎えする予定です。

本学の歴史を物語る資料・写真の展示や、キャンパスツアーの実施も企画しており、本学の昔と今を味わって頂けるのではないかと思います。

います。

また、地域に出かけての特別公開講座を開催するとともに、地域貢献型大学としての基盤を創るため、六十周年記念に設置した「研究活動支援基金」を継承・発展させる形での「(仮称)さくらの森夢基金」の設立も検討しています。

二〇〇六年(平成十八年)の独立行政法人化に伴い、現在、二〇二二年(平成三十四年)から始まる第二期中期計画の策定準備を進めておりますが、第二期中期計画では、期間中のキャンパス移転も視野に入れながら、存在感のある地域貢献型大学を実現していくことが大きなテーマとなります。

そのためにも、この創立七十周年記念事業の成功に向けて全力で取り組んでまいりますので、卒業生の皆様方の絶大なご支援をお願いいたします。

現実から乖離した虚構の言葉

葉が次から次に浮遊していく日常で、競技スポーツのみが生きた身体のリアルを体現し感動を人々に与えている。しかし、その競技者である選手は二瞬の時(勝利や新記録)の至福、さらにその彼方を目指して辛苦を身体化した努力をしている。

人々を魅惑して止まない競技スポーツは常に人生を変える魔力、容易に善悪の判断を許さない魔力をその深淵に湛えている。ただ、競技スポーツの才能に恵まれた者のみが魅惑と魔力の狭間で心に刻印される至福の感動を得ることが許される。

そうした競技スポーツの魅惑と魔力にとらわれ、才能の神に祝福された学生が山口県立大学にもいる。こうした選手が学生として、人間性と学的専門能力を高めながら、競技生活に没頭できるように大学は支援を行っている。

その取り組みを紹介しよう。これまでも、本学では国体に出場する選手や国体強化選手がおり、緩やかな形で有形・無形に学生(選手)への支援がなされてきた。こうした実績のもと、平成二十二年度新入生として、クライミングとアーチェリーに全国レベルで活躍が期待される有望な学生(選手)が入学したことを一つの契機として、副学長をチーム・リーダーとする「第一回山口国体支援プログラム・チーム会議」が設置され、本格的に国体強化選手への支援が開始された。その具体的な支援内容は(1)強化種目、(2)選手の育成、(3)施設設備、(4)ボランティア活動の参加、(5)広報活動等々を強化・促進し、選手の競技力の強化と環境整備を図ることである。

国体への取り組み ―至福の時に抱かれることを期待して―

国体支援チーム
基礎練習強化担当教員 青木 邦男

施設設備ではクライミングの練習施設として体育館内・外壁にクライミング・ウォールとボルタリング・ウォールが設置され、アーチェリーでは看護学部棟(新校舎)奥の山側高台に七〇mの距離を有すアーチェリー練習場が整備された。選手は併設された部室と安全管理がきめ細くなされた環境で日々練習に邁進している。

また、選手の専門的なトレーニングのために、既存のトレーニング室の床面積を二倍に拡張し、専門的なトレーニング機器・器具が備え付けられた。選手はもとより一般学生もこの新トレーニング室と機器・器具を大いに活用している。最後に、本学の平成二十二年度国体強化選手は岡村梢(社会福祉学科四年)、笠井あゆみ(社会福祉学科二年)(以上、アーチェリー)、重永織江(栄養学科二年)、藤本明日美(文化創造学科二年)、松原なみほ(国際文化学科二年)(以上、クライミング)である。これら選手の活躍や国体支援の詳細については本学ホームページの「山口国体を支援しています」を是非、ご覧いただき、応援をしていただきたい。

第三十一回 公開講座

講師 脚本家 福田 靖 氏

『龍馬伝』に込めた想い

第三十一回を迎える桜圃会公開講座は、十二月十七日(金)脚本家、福田靖氏をお迎えして、「龍馬伝」に込めた想いと題して開催された。初めに挨拶に立たれた江里健輔名誉会長から、創立七十周年を迎える山口県立大学の長い歴史の中で、そのほぼ半分も期間続けられてきた公開講座の重みの上に立って、新しい時代への息吹を感じていただきたいという願いが語られた。この公開講座はまた、山口県立大学客員教授特別講義ともなっている。講師の福



田靖氏は山口県周南市の出身である。学生のためにと語ってくださった自らの人生の軌跡は、まさに一遍のドラマを観るような感覚があった。劇団を主宰して活動にのめりこみ、定職をもたずに「極貧」生活を十年以上続けた中で、縁が縁を呼んで得たチャンスを生かし、自分のカラーにこだわりつつ「HERO」「ガリレオ」「サ・ラストメッセージ海猿」「上海タイフーン」といった二つひとつの作品に実らせていった先

がNHKの大河ドラマであった。学生には、「夢を持ってコツコツ続けること」「しらけず、面倒くさがらないこと」「やるかやらないかの選択を迫られたら、やる方を選ぶこと」などのメッセージをいただいた。NHK大河ドラマを観たことがないという福田靖氏は、自分のカラーを貫き、司馬遼太郎氏の描いた「竜馬がゆく」とは異なる龍馬像を求めて、二〇〇五年から仕事を始められた。テレビ放映される四

年半前のことである。まず、キャストを福山雅治氏と定め、「成長する龍馬像」を考えだし、龍馬に関わる人物として岩崎弥

太郎を発見して、登場する三百名近くの人間を描ききったそのうである。信条は、①わかりやすいこと、②テンポがよいこと、③笑いがあること、④こ存じ龍馬ものエピソードは一切入れないこと、⑤すべての人物を個性的にすること。その思いが伝わる講演であり、何時間でも聴き続けていたいお話であった。「この世に生まれたからには、命を使いきれ」の言葉通り、今後の活躍が目に見えようような素晴らしい脚本家との出会いとなった。

(昭和56年児童文化卒 岩野記)

本年度の情報交換会は、二回開催された。

一回目は桜圃会総会の前日である五月二十二日に開催され、各支部長と理事が出席した。まず大学よりキャンパス移転について報告があった。県の税収が減っている現状で、微妙な状況になっている。大学は第二期中期計画に基づいて、施設のあり方の検討中。また本館のありキャンパスをバイパス側に移転すると共に、既存の施設をいかに有効に使うかを考えていかなければならないとのこと。

次に開学七十周年記念事業について説明があった。来年度開学七十周年の節目となる。記念事業を行うことにしているが、これから検討組織を立

平成22年度 大学との情報交換会

ち上げる状況。今の時代にふさわしいものになるよう考えているとのこと。桜圃会へも協力をお願いされた。また大学より開催期日や事業内容について意見を求められ、大学だけでなく地域も関わったものがよい等の意見が出された。二回目は十二月十八日に開催された。「桜の森」の寒肥やりの後、豚汁とおむすびをいただきながら和やかな雰囲気の中で行われた。今回の話題はキャンパス移転について。大学はキャンパス移行構想について、県の了解を得て記者発表を行った。また十二月の県議会一般質問では、大学の存亡の質問に対し、県知事が「来年度に整備構想を策定したい」と答弁されたとの吉報を聞くことが出来た。

(昭和51年被服卒 岡村記)

人事異動

■退職

- 三宅 義子 国際文化学部教授
- 岩本テルヨ 看護栄養学部教授
- 小川 全夫 大学院健康福祉学研究科教授
- 市村 孝雄 大学院健康福祉学研究科教授
- 吉木 伸行 附属地域共生センター助教
- 山本 武 プロジェクト支援室特任教員
- 関屋 建三 プロジェクト支援室特任教員
- 萬井美貴子 看護研修センター主任教員

■新任

- 吉村 耕一 看護栄養学部教授
- 草間かおる 看護栄養学部准教授
- 大河原 修 附属地域共生センター助教
- 山中 直子 看護研修センター主任教員
- 篠原 久恵 看護研修センター専任教員

■事務局職員転出

- 伊嶋 正之 退職
- 村田 武彦 土木建築部都市計画課
- 松下 良三 柳井健康福祉センター
- 栗林 俊一 退職
- 塩田 裕子 土木建築部監理課
- 山本 和弘 退職
- 原田 美栄 農林水産部農村整備課
- 光本 恵子 やまぐち総合教育支援センター
- 田中 清弘 総合政策部広報広聴課
- 後藤 勝之 退職

■事務局職員転入(・法人採用)

- 丸山 絵里 企画グループ主事
- 小林 亮彦 生活支援グループ主任
- 三浦 理恵 生活支援グループ主任
- 松岡 光信 総務管理部長
- 後藤 勝之 総務グループ主査
- 橋本 あや 総務グループ主任
- 木下 拓之 人事グループ主査
- 三宅 早苗 教育研究推進室主事
- 宇田川 暢 教育研究推進室特任職員
- 河内麻沙美 経営企画部財務グループ主事

平成22年度 桜圃会総会開催

第六十六回桜圃会総会が平成二十二年五月二十三日(日)ホテルニュータナカにおいて131名の出席を得て開催されました。

司会の西山香代子さん(平成21年国際文化科学研究科修了)の開会の辞に続いて、吉村京会長より「教育が大変な時代だからこそ、大学の存在を強く感じる。母校を懐かしむ心を大切にし、〈大学〉のパートナーとしての〈桜圃会〉にしていきたい」と述べられ、江里健輔名誉会長からは、「卒業生がもっとと大学と関わるのが今後更に



求められ、二十年先の大学がどういう姿であれば美しいか、そのために今何をすべきかを考える事が必要」とのお言葉がありました。

又、今総会をもって吉村京会長は会長職を辞され、福田百合子先生が新会長に就任されました。十年にわたり桜圃会を支えていただいた吉村京会長へ、原田副会長から感謝の言葉と花束が贈呈されました。

講演は、山口県立大学国際文化学部准教授 山口光先生による「文化を創造するものづくりの世界」と題して、地域から生まれるデザインや企画プロデュースについてお話していただきました。

地域との関わりの中で制作された「萩ガラス」や木材を使用した「小物家具」、学生との活動について等、ユーモアを交えながらお話をしていただきました。文化を受け継ぐことも新しくすることも大事なデザインであり、地域特有の個性を生かすことが大切であると語り、地域振興に大学が関わる意味について、豊富な実体験や商品

を通してお話していただきました。講演終了後も(会食後も)、先生が持つてこられた商品に多くの方が殺到し、黒山の人だかりができていました。

会食時のレクリエーションは、山口県立大学マンドリンクラブによる演奏でした。スタジオジブリや水戸黄門のテーマなど幅広い楽曲が美しい演奏で流れ、アンコール曲のピンクレディーが始まると拍手と歌で会場は最高潮、更には山口女子大学学生歌も流れ、会場一体となつての大合唱になりました。

桜圃会の縦のつながり、横のつながりを改めて感じる温かい一時になりました。

(平成14年環境デザイン卒)

小橋記

附属郷土文学資料センターからのお願い

当センターは、山口県にゆかりのある文学関係資料の収集・保存・公開を目的として設立され、来年二十五周年を迎えます。当センターでは、会員の皆様が執筆された「文学に関する著作」を収集しております。ご著書をご寄贈いただける方は、桜圃会事務局までご送付ください。

平成21年度桜圃会会計収支決算書 H22.3.31(単位:円)

科目	目	21年度決算額
収入	入金	
繰越	経常会費	5,276,431
本部	入会金	2,462,000
事業	負担金	5,148,293
雑収	収入	740,000
合計	計	3,665
		13,630,389

支出	目	21年度決算額
総会	会議費	882,302
支部	援助費	432,999
会報	作成費	949,100
公開	講座費	1,231,058
桜圃	会賞費	344,596
桜の	育成事業費	398,072
入会	記念品費	59,025
旅	費	326,690
通	信費	1,322,650
印	刷費	151,520
事務局	運営費	26,775
退職	給与引当金	2,407,953
情報	管理費	200,000
備	品費	25,880
消	耗品費	23,961
雑	費	267,990
特別	会計に繰入	102,930
予	備費	200,000
合計	計	0
次年度	繰越金	9,353,501
		4,276,888

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

◆桜圃会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。

*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。終身会費は一括払いで一万円です。

◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・卒業年・科・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(番地、建物名、部屋番号)を正確にご記入下さい。

*住所、勤務先の変更、改姓の際もお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜圃会事務局

住所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時~17時)

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp>)

*桜圃会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

第10回 賞
桜園会 第十回
桜園会奨励賞
受賞報告

マンドリンクラブ

辻田 祐子

この度、桜園会奨励賞を頂きました。山口県立大学マンドリンクラブです。

私達は福祉施設を初めとした地域の施設等で演奏を行い、地域の方々にマンドリン音楽の楽しさを知って頂き、またマンドリンを多くの人々に知って頂くために活動をしています。



私達マンドリンクラブは県立大学でも伝統のあるサークルで、平成二十二年度には四十五周年記念演奏会を開催いたしました。先輩方から受けついで想いを演奏にのせて、皆様にお届け出来ればと思っております。

これからもマンドリン音楽の楽しさや感動を少しでも多くの方々に知って頂くために、大学でのイ

ベントや地域の施設での積極的な演奏活動を続けていきたいと考えております。そのためにも、自分たちの音を磨き、今以上に沢山の人を笑顔にする演奏ができるように、練習に励んでいきたいと思っております。

これからも温かく見守って頂ければ幸いです。ありがとうございました。

(文化創造3年)

タンDEMサークル

清水あかね

この度、桜園会奨励賞を受賞しました。タンDEMサークルです。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

「タンDEM」とは、二人乗りの自転車のことです。平成二十年度に結成されたサークルで、「風を切って走ろう」をテーマとし、タンDEMの普及を行い、県内の盲人福祉協会

や、点訳友の会の方々との、サイクリングイベント企画



を主な活動としてきました。自転車に乗りたくても乗れなかった方々から、「タンDEMに乗れて良かった」「自転車で長距離走れたことが喜びや自信につながりました。」などという声が聞かれ非常に喜ばれています。

今後も学外で行う活動を継続し、より多くの人に「風を切って走る」感動を伝えることができると思っています。まだまだ未熟な私たちですが、これからも温かく見守って頂ければ幸いです。ありがとうございました。

(社会福祉4年)

栄養学科食育プログラム開発チーム

学生代表 内菌 愛

この度桜園会奨励賞を受賞しました。栄養学科食育プログラム開発チームです。このような賞を頂くことが出来、大変嬉しく感じております。

本チームの活動は、小学生を対象とし、楽しみながら食への意識や行動の変化に繋がるオリジナルのプログラム開発を目指しています。

今年度は、家族の繋がりを深め、日々の家庭における食育



に活かせるように、親子参加型の食育プログラムを開発、実施しました。

今後ともこれまで培った知識と経験を基に、子ども達にとつて食育がもっと身近な存在となり、家庭でも保護者と共に食育に取り組めるようなプログラム、地域、学校など様々な場面で、小学生のみならず幼児、中学生など幅広い年代を対象としたプログラムなどを開発し、精力的に活動を行っていきたくて考えています。ありがとうございました。

(栄養3年)

SCC(桜島クリエイターズクラブ)

植木ひとみ

この度、桜園会奨励賞をいただきました。桜島クリエイターズクラブ「SCC」です。成立したばかりの同好会ですが、このような素晴らしい賞をいただきましたことを誠に嬉しく思いま

す。

SCCは平成二十年に創作活動が好きな学生が有志で集まり、文化祭などで作品展をしてきました。始めは純粋に芸術を楽しむためのクラブでしたが、大学の外へ出て作品展をしていくうちに、地域交流といった新しい目的ができていき、アートふる山口、山口国体PRキャンペーン、菜香亭の市民ギャラリー、宮野駅看板制作など、学内を飛び越えて創作活動に取り組んで参りました。

地域の方々との交流を大切にしながら、あらゆるイベントに積極的に取り組み、個々人の創造性を高めながら芸術活動に励みたいと思います。これからの活動も温かく見守っていただければ幸いです。ご声援よろしくお願いたします。

(文化創造3年)



「思いを形に！」

米重 敏明

自分が入りたいと思える施設を目指しなさい。福祉施設に勤めるとよく言われる言葉の一つです。そこで質問、あなたが今、自ら望んで入りたい施設はありますか？

五年前、大学卒業後から勤めていた病院を退職し、介護付有料老人ホームを設立しました。勤務先ではMSW(医療ソーシャルワーカー)として勤務していましたが、急性期の病院ということもあり、退院後どうしても自宅に帰れない患者様の受け入れ先が無いという現



状を目の当たりにし、無いなら作ろう！とて勢いで始まりまし

た。しかし、いざ始めてみると苦難や新発見の連続、知識が増え、現実を知るほど、妥協しなくなっていくという一心のもと、自分が今入りたい施設とは？というテーマを追求することに。そして、自分なりの二つの答えとして、病院や施設ではなくホテルや旅館に近いサービス業を本手に、ホテルのホスピタリティと家庭の温かさ、この相反する二つの融合を目指すという結論に至

りました。これが介護付有料老人ホームテイエラの理念になっ

ています。この理念については賛否両論あると思いますが、開設後スタッフの努力や関係者様の協力もあり、少しずつ形になつてきています。開設から五年、経験や利用者の声から見えてきた新たな形、全てにおいてワンランク上のサービスをテーマに四月に新規施設を開設します。あなたが今入りたい施設を目指し日々努力しています。(平成13年社会福祉卒)

マンガで起業！

— 新たなコミュニケーション手法を山口から世界へ —

manga spaceLLC(マンガスペース)

酒井 悠希
中村 友香

はじめまして。私たち二人は、「大学生起業家」として、在学中にマンガデザイン会社manga spaceLLCを立ち上げました。

国際文化学部で、語学教育や異文化コミュニケーションについて学び、一年間のニュージーランド留学をきっかけに、「物事を分かりやすく、楽しく、より簡単に伝える」ための「マンガ」を使っ

たコミュニケーションデザインを

企画・制作する事業を思いつきました。長い文章で、難しそうに書かれたパンフレット・テキスト・広告チラシを「マンガ」になおし、全体を見やすくデザインする、という新たなコミュニケーション手法を提案しています。マンガであれば、分かりやすく、楽しく、簡単に情報が伝わり

平成23年度

桜園会総会のご案内

■日時

平成23年5月22日(日)
午前10時～午後2時

■場所

ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉 2-6-24
TEL083(923)1313

■講演

(演題)

「大内氏の食・毛利氏の食」

(講師)食文化研究家

江後 迪子先生

■会費

5,000円

当番幹事はS40・45・50・55・60・H2・7・12・17・22年卒業のクラス幹事さんです。

*出席ご希望の方は、5月11日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

ます。

起業のきっかけは、在学時代の留学経験にあると前述しましたが、もともと「日本語教師」のアシスタントとして現地の教壇に立っていた私たちは、当時の日本語クラスで使われていた教科書に着目しました。

世界的に有名な日本のマンガやアニメは、日本語を学ぶ人たちの学習意欲を引き出すものでもあります。長文だらけで古めかしい内容の教科書を二

新、マンガを多用した「今の日本」を伝える教科書として、現地の教員と共同編集し、大反響を呼びました。

教育にもビジネスにも、情報伝達の新たな手段として、マン

ガをもっと起用したい。そんな日本の素晴らしい文化を、ここ山口から世界に向けて発信していきたい。

大学時代に培った、「広く見る目・深く考える頭・柔軟に捉える心」を大切に、これからも事業家として活躍していきたいと思いま

(平成22年国際文化卒)



HPアドレス: <http://www.manga-space.jp/>

支部長・理事 合同会議報告

総会前日の平成二十二年五月二十二日(土)十六時から、ホテルニュータナカにおいて、第十五回桜園会支部長・理事合同会議が開催されました。

県外から七支部、県内から十一支部の各支部長それに十六名の理事が同席しました。

吉村会長のあいさつに続き、梅地副会長の司会により、各支部長から自己紹介を兼ねた現状報告がされました。

総会を開催しても参加者が少なく、メンバーが固定化していること、高齢化で支部の運営に困難をきたしていること、次の役員を引き受ける人がいないこと等、多くの支部での共通の悩みが語られました。

そうした中で近隣の支部との交流を試みて総会出席者が増え盛會裡に開催できたこと、これまでは支部運営に余り協力できなかったが、退職を機にお返しをしたいとのこと、わからないまま役員を引き継いだが一同協力して大変楽

しい会となり、今後積極的に行事参加をしたい、等々嬉しい話もお聞きしました。

桜園会の名のもと、連綿と続けられてきている同窓生の集まりを心のよりどころにされている先輩のお話も出て、改めて継続の必要性を感じ、密かに誓われた支部長もおられたのではないのでしょうか。

吉村会長より帰省の同窓生の、キャンパスがわかりにくいとの意見を経営審議会に上げて早速対応されたこともあり、同窓会を通して声を上げることで、解決出来ることもあるとの報告がされました。

年に一度のこの合同会議が、これからの支部運営にながしかの力と勇気を与えたのではないかと信じています。

(昭和37年国文学卒 矢儀記)



五十年目の里帰り

千住 紀子

「みやの会」と称するクラス会を毎年のように持回りで開催、今回は久しぶりに山口に還ってきました。卒業後五十年、古希という節目に、母校への里帰り訪問となりました。

八月の暑い日でしたが、キャンパスも宮野の里も昔と変わらず緑いっぱいになりました。建物はすっかり新しくなりましたが、通された調理実習室の懐かしい匂い、その中で乃木章子先生を囲んでのひとときは忘れ難いものでした。現在の大学の様子なども話して下さいましたが、びっくりしたのは当時使っていた古い調理器具を用意して下さいましたこととです。そのお心遣いに感激しつつ皆で手にとつて懐かしんでい

るうちに、炭火をおこすことから始めた調理、冬には天窓からチラチラ雪が降ってきた実習室へとたちまちタイムスリップしたのでした。また若く澁刺として、恩師の先生方との思い出等を語り合えたのもうれしいことでした。

榎水寮、桜の森、唯一当時のままの講堂等を、事務官の津田泰宏様が案内して下さいました。寮から学舎への小径、講堂裏は夏草の匂いと樹々を渡る風にあふれ、眼を閉じれば二十の青春の日々がそこにありました。こ

とでしよう。
五十年の歳月を巻き戻して、熱いエールとパワーを貰って、また心新たに二歩が踏み出せそうです。
乃木先生、津田様、わが母校ありがとうございました。

(昭和36年食物卒)



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職 矢儀 良三 H21.1
旧教 吉村 昭男 H21.4.30
旧職 白根 宏 H21.10.10

◆会員

S26児童 島岡 君子 H19.1.5
S25生活 原 和子 H20.3.6
S35食物 久岡 聡子 H20.7.4
S49食物 今村 和子 H20.12.25
S58児文 堀米 睦子 H20.12
S28被服 石田多恵子 H21.4.27
S30被服 神部美美子 H21.5
S23被服 義永 繁子 H21.7
S30国文 有田恵美子 H21.8.3
S23育児 須藤ヒサエ H21.8.17
S28国文 河村 郁江 H21.9.5
S32児童 大石 節子 H21.9.17
S24被服 石井 キミ H21.9
H15栄養 陶山 京子 H21.10
S41国文 宮内 民代 H21.12.28
S24育児 平山 禮子 H22.2.8
S25育児 中山スミ子 H22.3.3
S28被服 原田 サト H22.3.30
S23国語 都野 清子 H22.4.15
S43食物 円光 澄恵 H22.5
S59食管 横引 陽子 H22
H19大学院 神田 裕美 H23.1.3
S18家事 泉本 玲子
S45保育 木阪 泰子



母校への思い あらたに

広島支部 松原 正美



ことが、私の責務である」と力強く語られました。

福田会長も「開学七十周年記念事業に全力で取り組んでいる。広島支部もぜひ協力を……」と熱く呼びかけられました。

会員の自己紹介では、いままなお自己の人生の質を高めんと、真摯に努力されている姿に、深い感銘をうけました。

最後に、なつかしの山口女子大学学生歌を斉唱して散会。母校への思いをあらたにした清涼の一日でした。

心占める母校の位置におどろきぬ同窓会終へひとり歩むときの

(昭和33年国文学)

支部総会を顧みて

防府支部 中村真理子

十月三日(日)小雨模様の中、デザインプラザ防府で、第二十七回支部総会を開催しました。

午前の部では、国際文化化学部の田村洋先生のご講演をいただき、弥生時代の笛の素朴な音色や、様々な趣のあるCDの演奏に魅了されました。人との出会いや交流の大切さを、ユーモアやエピソードを織り交ぜながら、熱

心に語っていただきました。最後は、先生が作曲された歌を合唱し、先生の広大で奥深い音楽の世界を皆で堪能しました。

午後からは、いよいよ懇親会の始まりです。桜園会本部から、岩野雅子先生にもご出席いただき、県立大学の近況についてのお話も聴けました。初めて顔を合わす会員も多い中、徐々に打ち解け合い、一段と和やかな雰囲気になりました。懐かしい学生歌を皆で歌いながら、名残惜しく会を終えました。昭和十八年卒業の大先輩から、「本当に来て良かったわ」と声をかけていただいたのも、大きな喜びです。

七十年近い桜園会の歴史と伝統を、決して絶やしてはならないと、強く感じたところです。

(昭和56年国文学)



〈平成22年度支部会開催報告・予定〉

開催日	支部名	本部からの出席
22年 4月18日	山口支部	小田由紀雄副理事長/吉村 京会長
22年 5月28日	福岡支部	吉田節子理事
22年 6月 6日	近畿支部	相原次男先生/原田洋子副会長
22年 6月 6日	小野田支部	田村 洋先生/岩野雅子理事
22年 6月12日	関東支部	稲田秀雄先生/安光裕子理事
22年 6月13日	萩支部	加登田恵子先生/竹永吉伸理事
22年 6月20日	宇部支部	岩野雅子理事
22年 6月27日	下関支部	
22年 9月26日	東海支部	
22年10月 3日	防府支部	田村 洋先生/岩野雅子理事
22年10月 9日	広島支部	江里健輔学長/福田百合子会長
22年11月 6日	岩国支部	福田百合子会長
23年 2月20日	柳井支部	吉田節子理事

桜園会支部リスト (平成21年12月現在)

支部名	支部長名	支部会員数(名)
関東	藤 壽美智子 (国文49)	856
東海	蔵 重 文子 (国文38)	141
近畿	赤木 絹子 (食物45)	663
広島	松原 正美 (国文33)	595
四国	村松 幸子 (食物35)	294
北九州	岡本 浪江 (食物42)	459
福岡	宗野 淑 (被服39)	465
佐賀	久保 由美子 (食物49)	132
大分	栗屋 文世 (国文44)	260
岩国	片岡 郁子 (国文41)	232
柳井	植野 悦子 (被服38)	229
下松	清木 秩子 (国文33)	331
徳山	磯辺 治代 (保育43)	368
防府	中村 真理子 (国文56)	465
山口	中村 孝子 (保育40)	1,420
萩	藤井 郁子 (国文47)	161
長門	中澤 允子 (被服36)	132
宇部	西村 通子 (食物43)	825
小野田	嶋田 明美 (食栄55)	182
下関	川崎 貴代子 (保育45)	502

編集後記

母校も今年、創立七十周年を迎えることになり、五九号はそのご案内も兼ねて、少し早い発行となりました。江里健輔学長に熱い思いを叙べて頂き、女専以来、長い歴史に深く係わってこられた福田百合子新会長に抱負を寄せて頂きました。更なる発展を期して、同窓生も一人ひとり母校への思いを繋げていきたいと思えます。会報がそのお役に立てば幸いです。

(熊本記)